

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400060		
法人名	ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき(西区)		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番2		
自己評価作成日	令和1年9月11日	評価結果市町村受理日	令和元年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2393400060-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にある「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活する」ことを基本に 利用者の方や家族様が安心して笑顔で過ごせるようにサポートしています。外出支援の充実を図り 施設内ばかりでなく気分転換や季節を肌で感じて頂けるよう支援し快適な暮らしを目標に日々取り組んでいます。当事業所は併設されている施設との交流もあり 昔馴染の方とのふれあひも大切にしています。経営母体に 有床診療所があり医療との24時間の連携を持つことにより 健康面でのサポートも充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

例えば「かがやきだよりNo.92号(1月)」ではお茶を点てたり、カルタ取りに興じたり、また看護師の演奏するクラリネットの音色に合わせて歌ったり、壁画作りに集中する等の様子が見られ、毎月様々なことに取り組んでいることが覗えます。沢山の行事の大半は計画に位置付けられているわけではなく、「いい風が吹くようになったね」「〇〇祭りが始まるよ」といった声がかかって「行こう～」「やろう～」となって実現しており、理念「地域社会の中で(中略)その人らしく生活していただけるようサポートしています」に結ばれる活動が継続されています。このように臨機応変的な対応ができるのも定着率の高さの賜物で、チームワークの良さが光る事業所で

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域行事の参加や、地域の子供たちの福祉体験の受け入れや 馴染の喫茶店 花見などの外出などをするにより人と人とのふれあい その人らしい生活のサポートをしている	「地域社会の中で人と人のふれあいを大切に一人ひとりが笑顔で その人らしく生活していただけをサポートいたします」との理念は、毎月発行の「かがやきだより」を見れば一目瞭然の実践力を誇っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	推進会議では、自治会町 民生委員 高齢者安心サポートセンター 市会議員の参加や中高生の職業体験の受け入れ ウォーキング大会での協賛品の提供と参加 定期的にウクレレのボランティア受け入れをしている	母体病院の外来にあったパンフレットを携えて伴侶の認知症について相談に訪れたケースでは、地域包括支援センターとも連携しています。また就労支援施設に通う障がい者がピアノ演奏に訪れたり、敷地内のデイサービスに通う利用者が野菜を届けてくださいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由に施設見学の受け入れ、認知症の方を介護している家族の方の相談窓口を行い、認知症サポーターの養成講座の開催を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	体温調整の仕方や、施設からは水分摂取を拒む方の水分摂取の方法を伝えたり、家族からは行事の際の季節のおやつを取り入れ利用者若くは若人とのコミュニケーションに利用者さんが戦争の話を入れると話してくれるなどを聞き実践している	以前の町会長が市議員をメンバーに誘ってくださり、新町内会長とともに運営推進会議の隔月開催への参加を得ています。家族も率直な意見を述べてくださり、また本年度は犬山市からの改善提案を受けて、内容を刷新しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所には困難事例での相談や、推進会議の方法の相談や、包括支援センターには認知症の方を介護している方からの相談について 相談内容と結果や介護者の状況などを報告している 市の介護相談員の受け入れも行っている	3年毎に職員は交替していても概ね気さくで親切なことから、犬山市窓口にはちょっとしたことも聞くことができる関係にあります。また運営推進会議が充実するようとの指導を市内の事業所全てに通達があり、テーマを決めて話し合うなど体制が向上しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での身体拘束委員会にて 事例発表しているため、事例についての経緯や身体拘束の改善等の報告や、身体拘束の勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年来の法改正については指針を定め、身体拘束廃止委員会も6月、9月、12月、3月の第四水曜日と定め、3ヶ月毎に開催出来ています。特に新入社員の研修については「1ヶ月以内に～」と、心して取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的ミーティングの中での勉強会や、トップミーティングにて事例で挙げられた報告をし 虐待が無いように意識を持つようになっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的勉強会を行い、制度の理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、ご理解をして頂いている。後日 疑問や、不安な点があった際は随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での出席者の意見、不参加の方のご意見については、推進会議の議事録の配布を行い、推進会議での意見については ミーティングにて発表し、話し合いを行っている。	家族会ではスライドショーで普段の様子を伝えたり、毎月写真入りの「かがやきだより」を発行して、家族の安心を担保しています。家族も「中学生の職場体験は、いい機会なので本人が得意な戦争の話をさせてやってほしい」と、気軽に意見や提案を伝えてくださいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には、ミーティング、申し送りにて出た問題点の報告 相談を随時行っている。それ以外にも営業会議、トップミーティングにて意見交換をし代表者の指示を仰いだり 職員の提案等が反映できる機会を設けている。	「入浴介助をおこないつつ訪問診療がある」など入浴の時間帯が繁雑となっていたため、「時間を変更したらどうか」という意見が挙がり、現在お試して1日の流れを変えています。タイムスケジュールに無理がなくなったことで、今後本格的導入を視野に入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職業規定に基づき 職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境となるよう配慮している。週に2～3回程ホームに訪れ 職場関係の把握などに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は 実践者研修の参加 外部研修の参加など参加推進への働き方の推進をしている。法人内での研修も積極的に行い 職員が学ぶ機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の施設見学受け入れは常時行っている。多職種連携会議の参加などでの意見交換も行っている。包括支援センターには認知症サポーター養成講座の開催をして頂いている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にてアセスメントを行い 本人のニーズを把握し家族の了解を得た上で 本人面談を行い困っている事、不安なことを聞くうえで信頼関係を築き本人が安心して生活できるようにする		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所相談、面談 契約の段階で、家族のニーズを把握し、家族には常に不安や心配事などができたらいつでも相談できる環境作りをし、信頼関係を築くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を求め、何が必要かの情報を集め 当方にてできるサービスを提供できるようにしている。必要に応じて 他事業所の紹介や相談も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活業務(食事の配膳 洗濯干し、洗濯たたみ 野菜の下ごしらえ)を行っているが職員と談笑しながら行い 暮らしをともにする仲間としての時間としている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の呼びかけや、面会時や電話等にてに普段の様子、状態を伝え必要に応じて病院受診等のお願いをしつつ本人が安心して暮らせる環境を家族と共に相談しながら 暮らしていけるような状態にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に生活歴などを聞きながら これまでの生活が続けられるよう整備している。馴染の方が訪ねてきた際には 本人の状態も伝えたいうえで外出なども進めている。	仕事帰りに立ち寄る家族や鍼灸院や美容院に通う本人のために、施設の開け閉めを都度こなっています。またお茶の師範だった利用者にお点前をお願いしたところ、「えっ、ここで？」と尻込みしつつも、他の利用者も「前にやっていたの」と意欲をみせ、輪が広がった例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の関係性を申し送りなどで 随時報告し合い トラブル等が起きそうな場合には早期に解決できるよう職員がさりげなく間に入れるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療などでサービスが終了しても 面会などに行き家族の相談等に乗る一方で 必要関係部署には連絡を取り、家族が安心して過ごせるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向が尊重できるように コミュニケーションを多くとれるようにしています。その場で解決できない時は 申し送り、ミーティングにて話し合いをし本人にとって最善になるよう話し合いをします	事務室のドアの下から手紙をスツと入れる利用者は、身近に紙がないとトイレトペーパーに書いてもいて、書く事で満足を得ている様子です。一人ひとりのこのような症状や癖は「個人記録」のコメント欄に記載し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に 家族、ケアマネ等からの情報をもとに生活歴を作成し 入所後の生活に生かしています。入居後も親族の方、友人の方からも情報を聞きミーティングや個人記録に記載して職員がいつでも把握できるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に日々の状態を記録し、気になった事 気付いたことがあった際にはその都度の申し送りや、ミーティングにて報告し把握できるようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いを行い 要望・意見を踏まえたうえで計画書の作成を行っている。状態変化の必要に応じて計画書の見直しも行っている	2表のサービス内容は簡潔で具体的な要旨にまとめられていますが、回数を重ねると「コメント欄」が増え、本人が描かれるようになります。また家族とともに本人の状態をよく把握する専門職(看護師)もサービス担当者会議に出席している点も評価される点です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実際に行った対応などについては申し送りなどにて伝え、その際に気付いた点や不明な点を見つけ出し 介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の必要性や、歯科受診などの往診 リハビリの導入など家族に状態報告をするとともに 現在必要なニーズを把握するようにしている 同一法人内の併設施設共交流し対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や警察などの機関との連携を持ち、緊急時の依頼の際にスムーズに対応できるようにし AED講習や防犯講習を行って頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の情報や、継続治療の際の当施設での状態情報を情報提供し取りながら連携をとっている	看護師は24時間オンコールで医師の連携もあり、医療体制が整っています。契約の時には「どんなレベルまで見てくれるの?」と、よく聞かれる程で、母体との医療連携が密なことを期待しての入居のため、協力医が月4回おこなう訪問診療は家族から歓迎されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との24時間連携体制をとっている。家族の要望、必要に応じて 看護師、Drから説明ができるような態勢をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に現状把握ができるように 面会に行き本人に会い状態確認をしている。担当看護師SWと情報交換し家族に疑問、不安があればその都度対応できるようにしている。退院後の生活に必要な準備が早期に整えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から気になる事や、状態変化については面会時に家族に伝えている。必要時にはDrやNrから説明して頂き 事業所にてできる範囲での説明を家族に説明し、家族の意向を確認しながら家族と本人が納得でき生活できるようにしています	初めての看取りにチャレンジするにあたり、カンファレンスなど機会を設けて「記録の取り方」といった学びを深めています。今回のことは職員にはよい刺激となっていて、高まった意欲を次回に向け、改めて学習を積む予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署の方にAED、CRPの講習をして頂いている。カンファレンスにて急変時の対応 早期対応の勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での避難訓練、事業所での避難訓練を年2回行っている。台風接近時 大雨による被害が懸念された場合に消防署への避難協力体制をお願いしている	事業所の訓練が年2回のほか、法人での訓練が2回(職員のみ対象)実施されています。所内訓練では利用者も戸外まで出ていますが平屋で垂直避難が難しいため、近くに流れる人工河川が氾濫した場合のリスクについては、法人が消防署に救助の依頼をおこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権が損なわれないような声掛けや誘導を行っている。居室に入室する際には断りやノックをしてから入室するようにしている。申し送りの際も人権が損なわれないように配慮しながら 名前の頭文字の英字にて申し送ることもある	食事介助が6名となっています。職員が時間をずらすなどして大変そうですが、「〇〇ですよ」「これは好きですよ」と声をかけつつ介助しており、やむを得ず席を立つときは「ちょっと…」、戻ってきて「ごめんなさいね。お待たせしました」との配慮ある声掛けがあることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝えられるように コミュニケーションを多くとれるようにしている。本人が選択に困っている際は声掛けをしながら何を望み求めているのかを訴えやすい信頼関係を築くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や入浴など 拒否があった際は再度声掛けを行ったり 曜日を変更している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧されている方や、入浴後の整髪 洗面などが自身で出来る方は行って頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン食やご飯にふりかけ 海苔などを提供したりしている。机拭きや食器の下膳ができる人には行って頂いている。利用者のできることを見つけ一緒に行うようにしている	本体の厨房から届く献立は温かいものはあたたかく、また里芋や冬瓜といった季節の野菜を味や調理法で際立たせていて、味や見た目に楽しい食事が提供されています。検食は母体がおこない、所内では味見程度としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行っている。食事量が摂れない方にはDrやNr 法人内の栄養士に相談し栄養補助食品を活用したり 家族に食べれるものをお願いし持参して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身でできる方は見守りを行い 出来ない方は介助し対応している。必要に応じて訪問歯科のDrに相談し、家族に歯科受診の依頼もしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのチェックをし トイレ内での排泄に努めている。排泄拒否がある際には 声掛けの仕方を変えたり 他の職員に代わって対応している	排泄チェック表でリズムを把握して定時誘導をおこない、便秘についてはマイナス2日で医師から指示が入り、ホームナースが座薬を以て改善しています。病院から戻ってオムツがリハパンに戻った例もありますが、大半は維持です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはバナナ、週2回は牛乳の日を設けたり、水分摂取量を多く摂れるようにしている。体操や、散歩をし運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は 水、日以外で実施しているが 当日拒否があった場合は声掛けをまめに行ってみたり 入浴順を変更したりしている	重度化が進んでいて、18名中5名は湯に浸かれています。他はシャワーチェアとミスト、足浴の3点セットで対応しています。「入浴の歓びを」として、季節を連想させる造花で飾ったり、菖蒲や蜜柑を浮かべた日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を活かし 好きな時間に合わせて休んで頂いている。寝付けにくい人や不穏な人に関しては話を聴くなど一緒に過ごす時間を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフに確認 把握できるようにしている。臨時薬については 服薬開始時点で申し送りし Nrに状態等の連絡をしている。法人内の薬剤師にも報告し状態把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で 洗い物 洗濯干し 洗濯たたみ 食事準備を個々に合わせて毎日の習慣として 職員と共に行っている。読書や塗り絵 喫茶店などの外出支援も行って気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気や 気温に気を付け 施設周辺の散歩も行っている。花見や紅葉ドライブなども行っている。家族や友人との外出も行っていただくように働きかけ、法人内にてエスケープの心配な方は散歩を増やし、顔なじみになるようにしている	暑さ寒さがしのげる日は散歩に出かけ、また馴染みの喫茶店もあつて月1回ほどの頻度で出かけています。初詣、花見は梅と桜、紅葉狩りが慣例の外出行事となり、桜の花見では田楽を食べるのが楽しみとなっていて、ペーストの人も食べることができ、全員で堪能してます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金による対応をしている。現在 現金管理ができる方がいないので所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は、電話の取次ぎを行っている。家族からの手紙はあるが こちらからの手紙は行えてない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの窓から外を眺め その時々 の季節や天気などが感じられるようになって いる。居室がわからない方には花を付けたり 名前を見やすいようにしている	比較的な広い共有スペースには大きなソファを 置き、普段食事やレクリエーションの創作活動に 取組むテーブルと椅子のほかに利用者の居場 所がつけられています。採光調整も可能な2枚 カーテンで、日中にはレース1枚で涼しげです。	上部に取り付けた扇風機など、普段の掃 除箇所でないところの清掃について見直 すことを期待します(前回の「洗面所の上 にモノを置かないほうが～」の提案は改善 されています)。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファやテーブルにて気の合う 方向士でTVを観たり談笑している。居室内 でラジオを聞いたり 読書されたり 外の景色 を眺めて過ごされる方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の持ち物を持参して頂いて いる。仏壇も持参されている。居室内に家族写 真や趣味で作られた作品を飾られている部 屋もある。	どの居室にも天井部分にストックスペースが備 わり、重宝に使用している反面、地震などの予備も 必要とあって、ベッドや枕の向きに考慮してい ます。また家族が検討したのか、事業所が予め用 意しているベッドの色調に合せたチェストを持ち 込んでいる居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	浴室やトイレなどに手すりの設置 居室には 自分の部屋だとわかるように 花や飾りつけ をし自由に居室に出入りができるようにして いる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき(東区)		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番2		
自己評価作成日	令和1年9月10日	評価結果市町村受理日	令和元年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2393400060-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にある「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活する」ことを基本に 利用者の方や家族様が安心して笑顔で過ごせるようにサポートしています。外出支援の充実を図り 施設内ばかりでなく気分転換や季節を肌で感じて頂けるよう支援し快適な暮らしを目標に日々取り組んでいます。当事業所は併設されている施設との交流もあり 昔馴染の方とのふれあいも大切にしています。経営母体に 有床診療所があり医療との24時間の連携を持つことにより 健康面でのサポートも充実しています。

例えば「かがやきだよりNo.92号(1月)」ではお茶を点てたり、カルタ取りに興じたり、また看護師の演奏するクラリネットの音色に合わせて歌ったり、壁画作りに集中する等の様子が見られ、毎月様々なことに取り組んでいることが覗えます。沢山の行事の大半は計画に位置付けられているわけではなく、「いい風が吹くようになったね」「〇〇祭りが始まるよ」といった声がかかって「行こう〜」「やろう〜」となって実現しており、理念「地域社会の中で(中略)その人らしく生活していただけるようサポートしています」に結ばれる活動が継続されています。このように臨機応変的な対応ができるのも定着率の高さの賜物で、チームワークの良さが光る事業所で

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域行事の参加や、地域の子供たちの福祉体験の受け入れや 馴染の喫茶店 花見などの外出などをするにより人と人とのふれあい その人らしい生活のサポートをしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	推進会議では、自治会町 民生委員 高齢者安心サポートセンター 市議員の参加や中高生の職業体験の受け入れ ウォーキング大会での協賛品の提供と参加 定期的にウクレレのボランティア受け入れをしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由に施設見学の受け入れ、認知症の方を介護している家族の方の相談窓口を行い、認知症サポーターの養成講座の開催を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	体温調整の仕方や、施設からは水分摂取を拒む方の水分摂取の方法を伝えたり、家族からは行事の際の季節のおやつを取り入れ利用者とのコミュニケーションに利用者さんが戦争の話を入れると話してくれるなどを聞き実践している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所には困難事例での相談や、推進会議の方法の相談や、包括支援センターには認知症の方を介護している方からの相談について 相談内容と結果や介護者の状況などを報告している 市の介護相談員の受け入れも行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での身体拘束委員会にて 事例発表しているため、事例についての経緯や身体拘束の改善等の報告や、身体拘束の勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的ミーティングの中での勉強会や、トップミーティングにて事例で挙げられた報告をし 虐待が無いように意識を持つようになっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的勉強会を行い、制度の理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、ご理解をして頂いている。後日 疑問や、不安な点があった際は随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での出席者の意見、不参加の方のご意見については、推進会議の議事録の配布を行い、推進会議での意見については ミーティングにて発表し、話し合いを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には、ミーティング、申し送りにて出た問題点の報告 相談を随時行っている。それ以外にも営業会議、トップミーティングにて意見交換をし代表者の指示を仰いだり 職員の提案等が反映できる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職業規定に基づき 職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境となるよう配慮している。週に2～3回程ホームに訪れ 職場関係の把握などに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は 実践者研修の参加 外部研修の参加など参加推進への働き方の推進をしている。法人内での研修も積極的に行い 職員が学ぶ機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の施設見学受け入れは常時行っている。多職種連携会議の参加などでの意見交換も行っている。包括支援センターには認知症サポーター養成講座の開催をして頂いている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にてアセスメントを行い 本人のニーズを把握し家族の了解を得た上で 本人面談を行い困っている事、不安なことを聞くうえで信頼関係を築き本人が安心して生活できるようにする		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所相談、面談 契約の段階で、家族のニーズを把握し、家族には常に不安や心配事などができたらいつでも相談できる環境作りをし、信頼関係を築くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を求め、何が必要かの情報を集め 当方にてできるサービスを提供できるようにしている。必要に応じて 他事業所の紹介や相談も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活業務(食事の配膳 洗濯干し、洗濯たたみ 野菜の下ごしらえ)を行っているが職員と談笑しながら行い 暮らしをともにする仲間としての時間としている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の呼びかけや、面会時や電話等にてに普段の様子、状態を伝え必要に応じて病院受診等のお願いをしつつ本人が安心して暮らせる環境を家族と共に相談しながら 暮らしていけるような状態にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に生活歴などを聞きながら これまでの生活が続けられるよう整備している。馴染の方が訪ねてきた際には 本人の状態も伝えたいうえで外出なども進めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の関係性を申し送りなどで 随時報告し合い トラブル等が起きそうな場合には早期に解決できるよう職員がさりげなく間に入れるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療などでサービスが終了しても 面会などに行き家族の相談等に乗る一方で 必要関係部署には連絡を取り、家族が安心して過ごせるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向が尊重できるように コミュニケーションを多くとれるようにしています。その場で解決できない時は 申し送り、ミーティングにて話し合いをし本人にとって最善になるよう話し合いをします		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に 家族、ケアマネ等からの情報をもとに生活歴を作成し 入所後の生活に生かしています。入居後も親族の方、友人の方からも情報を聞きミーティングや個人記録に記載して職員がいつでも把握できるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に日々の状態を記録し、気になった事 気付いたことがあった際にはその都度の申し送りや、ミーティングにて報告し把握できるようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いを行い 要望・意見を踏まえたうえで計画書の作成を行っている。状態変化の必要に応じて計画書の見直しも行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実際に行った対応などについては申し送りなどにて伝え、その際に気付いた点や不明な点を見つけ出し 介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の必要性や、歯科受診などの往診 リハビリの導入など家族に状態報告をするとともに 現在必要なニーズを把握するようにしている 同一法人内の併設施設共交流し対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や警察などの機関との連携を持ち、緊急時の依頼の際にスムーズに対応できるようにし AED講習や防犯講習を行って頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の情報や、継続治療の際の当施設での状態情報を情報提供したりしながら連携をとっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との24時間連携体制をとっている。家族の要望、必要に応じて 看護師、Drから説明ができるような態勢をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に現状把握ができるように 面会に行き本人に会い状態確認をしている。担当看護師SWと情報交換し家族に疑問、不安があればその都度対応できるようにしている。退院後の生活に必要な準備が早期に整えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から気になる事や、状態変化については面会時に家族に伝えている。必要時にはDrやNrから説明して頂き 事業所にてできる範囲での説明を家族に説明し、家族の意向を確認しながら家族と本人が納得でき生活できるようにしています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署の方にAED、CRPの講習をして頂いている。カンファレンスにて急変時の対応 早期対応の勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での避難訓練、事業所での避難訓練を年2回行っている。台風接近時 大雨による被害が懸念された場合に消防署への避難協力体制をお願いしている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権が損なわれないような声掛けや誘導を行っている。居室に入室する際には断りやノックをしてから入室するようにしている。申し送りの際も人権が損なわれないように配慮しながら 名前の頭文字の英字にて申し送ることもある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝えられるように コミュニケーションを多くとれるようにしている。本人が選択に困っている際は声掛けをしながら何を望み求めているのかを訴えやすい信頼関係を築くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や入浴など 拒否があった際は再度声掛けを行ったり 曜日を変更している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧されている方や、入浴後の整髪 洗面などが自身で出来る方は行って頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン食やご飯にふりかけ 海苔などを提供したりしている。机拭きや食器の下膳ができる人には行って頂いている。利用者のできることを見つけ一緒に行うようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行っている。食事量が摂れない方にはDrやNr 法人内の栄養士に相談し栄養補助食品を活用したり 家族に食べれるものをお願いし持参して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身でできる方は見守りを行い 出来ない方は介助し対応している。必要に応じて訪問歯科のDrに相談し、家族に歯科受診の依頼もしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのチェックをし トイレ内での排泄に努めている。排泄拒否がある際には 声掛けの仕方を変えたり 他の職員に代わって対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはバナナ、週2回は牛乳の日を設けたり、水分摂取量を多く摂れるようにしている。体操や、散歩をし運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は 水、日以外で実施しているが 当日拒否があった場合は声掛けをまめに行ってみたり 入浴順を変更したりしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を活かし 好きな時間に合わせて休んで頂いている。寝付けない人や不穏な人に関しては話を聴くなど一緒に過ごす時間を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフに確認 把握できるようにしている。臨時薬については 服薬開始時点で申し送りをし Nrに状態等の連絡をしている。法人内の薬剤師にも報告し状態把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で 洗い物 洗濯干し 洗濯たみ 食事準備を個々に合わせて毎日の習慣として 職員と共に行っている。読書や塗り絵 喫茶店などの外出支援も行って気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や 気温に気を付け 施設周辺の散歩も行っている。花見や紅葉ドライブなども行っている。家族や友人との外出も行っていただくように働きかけ、法人内にてエスケープの心配な方は散歩を増やし、顔なじみになるようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金による対応をしている。現在 現金管理ができる方がいないので所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は、電話の取次ぎを行っている。家族からの手紙はあるが こちらからの手紙は行えてない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの窓から外を眺め その時々 の季節や天気などが感じられるようになって いる。居室がわからない方には花を付けたり 名前を見やすいようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファやテーブルにて気の合う 方同士でTVを観たり談笑している。居室内 でラジオを聞いたり 読書されたり 外の景色 を眺めて過ごされる方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の持ち物を持参して頂いてい る。仏壇も持参されている。居室内に家族写 真や趣味で作られた作品を飾られている部 屋もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレなどに手すりの設置 居室には 自分の部屋だとわかるように 花や飾りつけ をし自由に居室に出入りができるようにして いる。		